

2014年4月12～13日 国際ロータリー第2700地区

国際ロータリー会長代理 ビチャイ・ラタクル 元RI会長

閉会の辞

穴井元昭ガバナー、そして親愛なるロータリアンの皆さん、

時の過ぎるのは早いもので、皆さんと共に過ごしたこの2日間も終わりに近づきました。

今ここにご出席の皆さんの多くは、シドニーの世界大会を、心待ちにしておられもの、と思います。また、皆さんすべてが、来年の、当地区の地区大会を、期待し待っておられる事でしょう。

この2日間の集いは、皆さん全員にとり、実り多いものであった事を希望します。穴井ガバナーの地区大会のやり方、皆さんがすべてのプログラムに、楽しみと仲間意識をもって参加されたこと、これらに心から敬意を表します。

今回の地区大会は、成功裡に終了し、長く皆さんの心に刻まれるでしょう。この事を、ロン・バートンRI会長にお伝えできるのは、私にとり大きな喜びです。

この機会に、ガバナーエレクトの熊澤浄一さん、ガバナーノミニの本田正寛さんに、心からのお祝いを申し上げたいと思います。この立派な地区の運営の舵取りをし、「良いこと」をする運動の責任を担われることに対して、お祝いを申し上げたいのです。

穴井ガバナーが、たとえこれ迄どんなに立派な事を達成されたにしても、お二人が更に、それ以上の事を行うべく、最善を尽くされると確信します。つまり、ロータリーは、停滞する事はできない、静止することもできない、絶えず前進しなければなりません。常に“ロータリーを实践し、みんなに豊かな人生を”です。

誰でしたか、かつて「誰も業績による名声を望まなくとも、業績を挙げることに限度はない」と言いました。

これは、ロータリー運動に良く当てはまります。ロータリーの名前、名誉を特に主張しなくとも、多くの事が達成されます。地域社会での奉仕活動でも、同じことが言えるでしょう。

必要なこと、すべき事がなされれば、誰が名声を得ようとも、問題にはなりません。

この事が、前にお話したように、私自身は、公共イメージの向上に、特に熱心ではない理由です。

ロータリーは、会員相互が幅広く交流し、ロータリーの諸クラブは、広範な地域をカバーし、我々はユニークな立場にあります。理想的な立場にあると言えます。すでに奉仕活動をしている人を援助する、他の人たちに働きかけ、他の人たちを巻き込む、指導が必要なところで指導する、興味ある人達に熱意を吹き込む、そういう立場にあるのです。

そしてもし、すでに有る機会をとらえる、機会がない所に、新たな機会を作る、それは私達に、われわれ自身に新しい活力を吹き込むのです。将来もそうです。私達は、さらに多くのものを獲得できる、失うものは何もないのです。

親愛なる友人の皆さん！ お別れの時がやって来ました。「さよなら」を告げるのは、いつもつらいことです。

この地区大会に関与して下さったすべての方に、お礼を申し上げます。二三人の人が、寄合い語りあうのは簡単だが、この様に大勢の人々が集まる大会の開催には、真に善意を持った、多くの人たちの協力が必要です。これが、この大会の、主要な部分であると信じます。

私は希望するのですが、皆さんが、ここで過ごした時間、ここで出会えた懐かしい友達、新しくできた多くの友達との、楽しい思い出を、喜んで振り返って下さるよう願っています。

皆さん全員が、無事に、明るい旅をして、帰宅されますように。

智江美さんと私に関してですが、智江美さんは、2015-16年度の、バンコック・ロータリークラブの会長を務める予定です。我々の帰途は、来た時と同じ

ではありません。皆さんが私達と共にあり、私達は、今回の大会を、今回お会いできた機会を、忘れる事はありません。

皆さんとの友情、皆さんとこの3日間、我々を一緒に集まるようにした、この偉大な組織につき、愛情と、種々の思いと、感情を、率直に分ち合う事が出来たのは有難いことでした。

皆さんにお別れすることは誠に寂しい。とくにガバナーの穴井さん、また親しい二人の友人、元R I理事の末永直行さん、パストガバナーの廣畑富雄さんの友情が、心に沁入るのです。

現在私は88歳ですから、残りの人生が少ないことは知っています。寿命には限りがあります。だが、残された時間がどんなに限られていても、私は最後までロータリーと関わりを持ち、私達を必要とする人々の人生を豊かにすべく、可能なことは何でもやるつもりです。

そして、親愛なるロータリアンの皆さん！ もう一度「さようなら」を言わせて下さい。

さようなら、友人である皆さま、今度お会いするまで、またいつまでも、神のご加護が、皆さまと共にありますように。